

ESPLANADE

FUKUOKA ART MUSEUM



仙厓さんと！



祝

40



Fukuoka Art Museum
40th Anniversary
福岡市美術館
開館40周年

197

見 て か ら 読 む か

所蔵品紹介

本図に描かれる三つの籠に入っているのは、左上から桔梗・女郎花、その右に野菊、下に薄。下の薄の籠だけなぜか少し離れて、傾いています。本紙には全体に薄墨を引いており、うす暗い霞、あるいは風でしょうか、薄はそれになびいて倒れたのでしょうか。

上部には乾山自身の筆で「花といえ
ば / 千種な がらに / あだならぬ /
色香にうつる / 野辺の露かな」とあります。意味は「秋に咲く花といえ
ば / 幾種もあるが、あだならぬまことの
心を持つ花は、その涙の露に色香を
映している」といったところでしょうか。この歌は室町～戦国時代の公卿・三条西実隆が詠じた「秋露草花香」と題する1首（『雪玉集』巻8）であることが判明しています。

本図のモチーフが意味するところについては、『源氏物語』に登場する女性のイメージに取材したのでは？という説もありますが、定説をみません。三つの花籠の配置が類似する図案が、本図より前に出版された衣装雛形（『新版小袖御ひながた』）に見出されており、乾山がそうした図案を参考にした可能性が指摘されています。いずれにしても、和歌が奏でるリズムと秋草のイメージが見事に融合した、秋の情趣に相応しい乾山絵画の傑作です。

松永耳庵（本名は安左工門）が本図を初めて目にしたのは昭和13年（1938）の秋、茶の湯の師と仰ぐ原三溪の茶事に招かれた時でした。その時の感想を自著の中で次のように記述しています。

「露重たげの苅萱が負ひ籠の、あるは傾き、あるは倒れ、それに讃歌の気持も其風韻に出で、何処となく寒烟にすだく蟋蟀の声も聞えて来る様で、晩秋初冬の庵室には之れ以上の一軸なく、何は扨て、一切の他を圧して独り主翁と肱を把って一座に臨むの慨がある。」（『茶道春秋』下、14頁）

作品が放つ魅力を席主三溪の存在に照らすほど、一入の感激であったことがうかがえます。三溪の没後18年を経て、耳庵は昭和32年（1957）に本図を手に入れ、秋に催す茶事の床飾りの定番として愛用しました。

本図は12月1日（日）まで開催中の「秋の名品展」（1階・松永記念館室）に出陳しています。併設の茶室展示ケース「春草廬」では、同じく秋の茶事の定番としていた三溪遺愛の名碗《柿の蒂茶碗 銘白雨》と合わせるため、床には本図のレプリカを掛けて再現的展示を行っています。耳庵を唸らせた掛軸の魅力を、ぜひご自身の眼でお確かめ下さい。

主任学芸主事（古美術担当）
後藤 恒

読 ん で か ら 見 る か

「晩秋初冬の庵室には之れ以上の一軸なし」



重要文化財

はなかごず
《花籠図》

尾形乾山

OGATA Kenzan

D
A
T
A

生没年 1663-1743
制作年 江戸時代 18世紀
技法・素材 紙本着色・掛幅装
サイズ 112.5 × 49.2cm
松永コレクション



親しみやすい書画で禅の教えをわかりやすく伝えた仙厓義梵（1750～1837）。彼の作品は長く人々から愛され、ここ福岡・博多では多くの個人コレクションが形成されました。そのいくつかは、縁あって福岡市美術館へご寄贈いただき、今や当館の仙厓コレクションは世界屈指の質と量を誇ります。去る2016年に小西昭一氏（福岡在住）より55点に及ぶ仙厓の書画や遺愛の品をご寄贈いただいたことにより、そのコレクションはさらにパワーアップしました。寄贈を顕彰して開催する「仙厓―小西コレクション」展は、これまでまとまった形で紹介されたことがなかった小西コレクションの全容を示す初の機会です。

当館のコレクションはその7割が寄贈によるものですが、福岡・博多の収集家から長く愛された仙厓作品は、まさにその象徴とも呼ぶべき存在です。福岡市美術館開館40周年という節目の年に満を持して開催する「仙厓―小西コレクション」展、ぜひご期待ください。

学芸員（古美術担当） 宮田太樹



EXHIBITION INFO

仙厓―小西コレクション

◆会期 2019年10月1日(火)～12月1日(日)

◆会場 福岡市美術館 1F 古美術企画展示室

定番の愛らしい作品から、知人への書状、手作りの文房具まで博多の仙厓さんの新たな魅力を発見できる展覧会。



CONTENTS

00 見てから読むか、読んでから見るか

尾形乾山

はなごぞ

《花籠図》重要文化財

04 ミドロドロコ？

ギュスターヴ・モロー展

06 ミドロドロコ？

梅田哲也 うたの起源

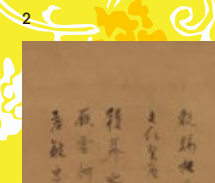
08 学芸員と、みてはなし。

《ポルト・リガトの聖母》、
《ゴシック聖堂でオルガン演奏を聞いている踊り子》

10 開館40周年を迎えて

11 LECTURE / FEATURE

12 CALENDAR / TIPS



1. 《すす玉名人図》 2. 《人物図》 3. 《表に揚げ雲雀図》 4. 《双狗図》 5. 《鏡子盃図》 6. 《月歌図》 7. 《箱崎図》 8. 《香巖撃竹図》 9. 《玉せせり図》 10. 《勾玉形香合》 11. 《鳩形香合》 1～9 仙厓義梵筆、10,11 仙厓義梵作

モローが描く 強い女性のイメージの源泉は？

代表作《出現》が14年ぶりに来日することでも話題の「ギュスターヴ・モロー展」が、いよいよ福岡市美術館にやってきます。世紀末の「ファム・ファタル」と呼ばれる女性像の形成に大きな影響を与えたと言われるモロー。彼の描く女性像に焦点を当てた本展覧会の見どころを、担当学芸員が教えます！

学芸員（近現代美術担当） 忠あゆみ

神

話や聖書の世界には、印象的な女性たちが登場します。誘惑に負けリンゴの木に手を伸ばすイヴ、ゼウスに見初められ誘

時代に、「目に見えるものは信じない」と、神秘的な絵画を描くことを追求しました。

彼の作品を特徴づけるのが、複雑なドラマを秘めた女性像です。モローは、題材となる物語を独自に解釈し、登場する

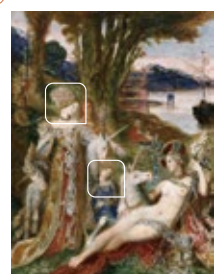
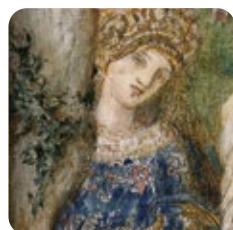
すべて ギュスターヴ・モロー美術館 蔵
0.2.3.4. Photo © RMN-Grand Palais / René-Gabriel Ojéda / distributed by AMF
1. Photo © RMN-Grand Palais / Christian Jean / distributed by AMF

拐されるエウロペ、歌声で旅人をおびき寄せ絞め殺すセイレーン……。時に理不尽な扱いを受け、時にトリックスターとして人々を翻弄する彼女たちを描いたのが、フランス象徴主義の画家、ギュスターヴ・モローです。



0. 《出現》 1876年頃

2 絵の上から描かれているのは？



2. 《一角獣》 1885年頃

展覧会で注目してほしいのが、絵の上に重ねられた線描です。装飾性の高い線描は、モローの作品の特徴の一つであると言われています。今回出展される《一角獣》でも、女性の髪飾りやドレスの上から、まるでもう一枚のレイヤーがあるように、繊細な描画が施されています。

サロメの踊る姿は、モローが習作を重ねる中で、ヨハネの首を欲する強い姿に変化していきました。これには、キリスト教への信仰が薄れ、さらに女性が力を得てきた社会的な背景も影響しているのかもしれない。今回の展覧会ではモローが繰り返し描いてきたサロメの習作を多く見ることができます。



1. 《サロメ》 1875年頃

3 モローを魅了した 古今東西の文物

裕福な環境に育ったモローは、様々な雑誌や書物や骨董品を購入したり、博覧会会場で模写をしたりすることで、豊富な古今東西のイメージやモチーフを手に入れていました。「目に見えないもの」を描こうとしたモローにとって、まだ見ぬ各地の文物は想像力を強く刺激するものだったのかもしれません。



3. ロマネスク建築に由来する動物のモチーフが見える《出現》の部分

ギュスターヴ・モロー Gustave Moreau

ギュスターヴ・モロー(1826-1898)は、フランス象徴主義を代表する画家。19世紀末のパリで、神話や聖書の世界を描き続けた。古今東西の装飾モチーフを取り入れ、幻想的な作品の数々を生み出し、19世紀末の世紀末の画家や文学者に多大な影響を与えた。

4 モローは ひきこもりだった!?

「パリの真ん中に隠れ住む神秘家」と称されたモロー。人と交わることを好まず、ひたすら制作に打ち込み、死後は恋人からの手紙を燃やしてほしいと言っていたとも伝えられます。展覧会に出品された作品を所蔵しているパリのギュスターヴ・モロー美術館は、彼が晩年まで過ごした住居兼アトリエです。



4. 《24歳の自画像》 1850年

EXHIBITION INFO

ギュスターヴ・モロー展
サロメと宿命の女たち

◆会期 2019年10月1日(火)

～11月24日(日)

◆会場 福岡市美術館 2F 特別展示室

モローの描く女性像に焦点を当て、代表作《出現》、《一角獣》を含むギュスターヴ・モロー美術館の所蔵作品約100点を紹介します。

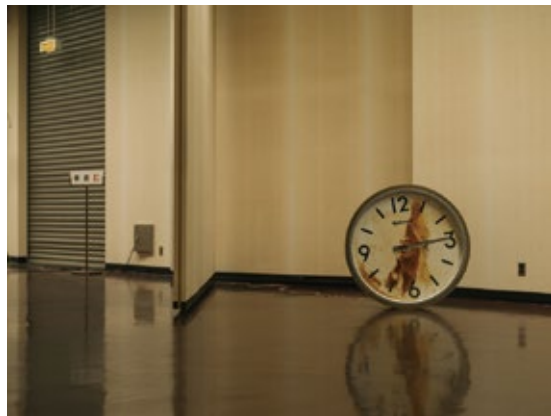
る女性の表情やしぐさを試行錯誤しながら肉付けしていきました。例えば洗礼者ヨハネの首を求めるサロメを描いた《出現》。この場面は、過去にもカラヴァッジョなどの画家が描いていますが、ヨハネの首の幻影を指差すサロメの凛としたポーズはモロー独自のものです。19世紀末、強い魅力によって出会った者を虜にし、運命を狂わせる「ファム・ファタル(宿命の女)」という女性イメージが一世を風靡しました。《出現》のサロメは「ファム・ファタル」をまさに具現化したものとして、人々の心を捉えました。一方で、モローの作品からは女性に投影されたファンタジーや男女のステレオタイプを超えた心理的ドラマを読み取ることができ、時を超えて私たちを魅了します。

本展では、約100点の作品のほか、実の母親や生涯連れ添ったパートナーにまつわる貴重な資料を展示します。モローの創造の源泉をこれらの資料からもひも解きながら、女性たちをめぐる物語をお楽しみください。

まだ何も存在していない
展覧会を想像する

ギ

シグシと音を立てながら勝手に動き出すシャッター、大きく穴をあけられた天井から下がるネオン管、壁の奥で回りながらチカチカ光る電球、内線電話から聞こえてくる古い音声、錆が生じて茶色く変化してゆく水のなかで音を拾うマイク。これは、2016年8月に当館で開催した現代美術のグル



「歴史する! Doing history!」の
展示風景とパフォーマンスの様子
Photo: 山中慎太郎 (Qsuyumi)

ープ展「歴史する! Doing history!」(2016年8月2日-31日)での梅田哲也さんのインスタレーション「始まりの少しあと、100000000年」で見る/聴くことができたものの一部です。改修工事を含め、リニューアルされることになった展示室の設備や美術館の古い備品が、梅田さんの手によって、最

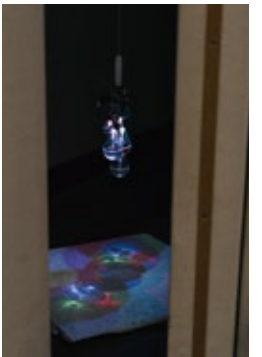
後に生を全うしようとしているようにも思えたものです。

梅田さんは、作品を発表する場の構造や周囲の環境、設備や素材を用いたインスタレーションやサイトスペシフィックな作品を手掛けるアーティストです。展覧会だけではなく、劇場の機能にフォーカスした舞台作品や、パフォーマンスとのコラボレーション、合唱のプロジェクトなどの作品も発表し、美術音楽、パフォーマンス、アート、メディアアート、といった様々な分野で引く手あまた。世界中を飛び回り活動さ

のコラボレーション、合唱のプロジェクトなどの作品も発表し、美術音楽、パフォーマンス、アート、メディアアート、といった様々な分野で引く手あまた。世界中を飛び回り活動さ

れています。リニューアルを経て、福岡市美術館の展示室は床も壁も天井も照明も様変わりしました。場の特性や条件を踏まえ制作される梅田さんのこと、前回とは全く違った作品となるのは当然ですが、今回は、「つた (Voices)」という言葉が展覧会名にも含まれているように「人」も重要な要素です。視覚表現が前提とされがちな美術館という場において、梅田さんの作品に欠かせない音、気配、動きは、どのようにあらわれ、すれ違い、そして絡み合うのでしょうか。会場にお越しになるあなたもまた、その一部となります。

文 学芸員 (近現代美術担当) 正路佐知子



2 『Umeda + Sawa』

梅田さんとさわひらきさんの二人展。梅田さんの作品は、モビールのように天井から吊り下げられたライト、水の入ったガラスらがそれぞれの速度で回転しながら、上下に揺れ、あるものは光源となり、あるものは壁に影を落としてゆきます。それは光と動きのオーケストラのようで見ていて飽きません。さわさんの映像とのリンクも見事でした。



Courtesy of Ota Fine Arts, Shanghai / Singapore / Tokyo.

オオタファインアーツ、上海、2019年5月14日

3

『インターンシップ』

裏方の技術者やスタッフ、劇場の舞台や照明装置そのものがここでは主役。技術者の手によって各装置が通常ありえないようなダイナミックな動きを見せ、視覚や聴覚に訴えるシーンの連続。このプログラムの実現のために、インターンとして「潜入」した梅田さんは劇場スタッフとどのような関係性を結んでいったのか、想像してみたり。

「Composite」最終リハーサルの様子 (写真提供: 神戸アートビレッジセンター)



神戸アートビレッジセンター、2019年8月12日

1 『Composite』

一般の参加者＝パフォーマーが目をつぶり輪になって、梅田さんが設定したいくつかのルールのもと、シンプルな動作と発声を繰り返します。その様子はまるで遊戯か儀式のよう。周囲の気配と耳から入る音声が頼りのパフォーマンスはリズムを崩したり、また持ち直したり。終盤、編成が変わり最後には会場が暗転。暗闇のなか歌が。何かが生まれる場に、あるいは消滅する場に立ちあっているようでした。

「インターンシップ」初演時の舞台写真より Photo: Rody Shimazaki



国立アジア文化殿堂、光州、2016年5月7日 / KAA 神奈川芸術劇場ホール、2018年2月13日

EXHIBITION INFO

梅田哲也 うたの起源
Umeda Tetsuya:
On the origin of voices

- ◆会期 2019年11月2日～
2020年1月13日
- ◆会場 福岡市美術館 2F
近現代美術室 B ほか
- ◆展覧会特設サイト
<https://umeda.exhb.jp>

※関連イベント
については、特
設サイトで情報
公開予定!
要チェックです。



梅田哲也

Umeda Tetsuya

2000年代初めより活動開始。近年の展覧会は「札幌国際芸術祭 2017」、「東海岸大地芸術祭」(台東、2018年)、「リボンアート・フェスティバル 2019」(宮城県石巻市)。個展は「See, Look at Observed what Watching is」(Portland Institute for Contemporary Art, ポートランド、2016年)。パフォーマンス作品では「Composite: Variations」(Kunstenfestivaldesarts 2017、ブリュッセル)、「INTERNSHIP」(国立アジア文化殿堂、光州、2016年 / TPAM 2018、KAA 神奈川芸術劇場ホール) などがある。



◆梅田哲也ウェブサイト
<http://siranami.com>

2F

1

学芸員と、 みて はなし。

美術作品は、決まった見方があるわけではなく、見る人によって、その意味合いを変えるものです。この日、当館2Fで開催中の「コレクションハイライト」美術史を彩った巨匠たち」で、学芸員と一緒に作品を鑑賞したのは、5人の中学生たち。はたしてどんなふうに作品が見えてくるでしょう？



R.S 人間に穴が空いている。ありえない！

K.M 女の人が周りに10人くらい浮いています。顔がにゅっと伸びている人もいる。

M.O 下の方にサインが見えます。

鬼本 それは作者のサルバドール・ダリのサイン。サインの上には、「Gala 1950」と書かれています。ガラとはダリの妻の名前で、真ん中にいる女の人顔は、ガラだと言われています。さて、次に作品をはなれて見てみましょう。何が見える？

S.N 何も見えない。

主任学芸主事（教育普及担当） 鬼本佳代子
専門は美術館教育。



鬼本 まず最初の作品です。近くから見ての印象はどうでしょう？この絵の中で何が起ってるのかな？

S.S 神秘的。

S.N 空がなんだか変な感じ。

M.O 海との境目が不思議な感じ。

鬼本 そう、見るっていうのは不思議で、認識しないと見えないものなんだよね。さあ、がんばってしっかり見てみようか。

S.N 左下にサイがいる。

みんな口々に テーブルの上に花が。ほら貝の貝殻かな？栗？みたいなものも。ザクロみたいなものもある。真ん中に牡蠣みたいなものが釣られている。子どもの真ん中に浮いているのはパンかな？肉みたいなものもぶらさがっている・・・。

鬼本 ほら、どんどん見えてきた！肉のように見えるものは、コルクの皮だといわれています。実はこの絵の中に描かれているものの多くはキリスト教では、何かを象徴するものです。キリスト教の文化圏の人には、この真ん中の女の人と子どもが、聖母マリアとキリストだとうつるでしょうね。タイトルにも「聖母」とついてます。

K.M あ！建物の割れているところが十字になってる。

鬼本 いいところに気がつきました。しっかり見ることで、最初とは見え方が変わってきたんじゃない？この作品でダリは、マリアの顔を自分の妻の顔にしてしまったわけです。これはキリスト教を信仰している人にしてみれば、神様への冒涇では？と感じることもかもしれませんが、ダリにとってはそれくらい妻が大切だったんでしょうね。

D A T A
作品名 ボルト・リガトの聖母
作者名 サルバドール・ダリ
生没年 1904 - 1989
制作年 1950
技法・素材 油彩・画布
サイズ 275.3 × 209.8cm

D A T A
作品名 ゴシック聖堂でオルガン演奏を聞いている踊り子
作者名 ジョアン・ミロ
生没年 1893 - 1983
制作年 1945
技法・素材 油彩・画布
サイズ 197.1 × 130.6cm

見て話した人

学芸員



中学生

この日は職場体験で
来館中。

私が不思議に思うのは、風景を描いているようなのに、絵の両端にカーテンが掛かっているように描かれていること。みんなもぜひ引き続きよく見たり、考えたりしてみてください。じゃあ次の作品を見てみましょうか。（移動）

S.S 目が気になる。目が5つあります。

M.O 小さい子が描いた、落書きみたいな絵。

K.M 一番大きな形のは、横にしてみたら人のように見えます。



R.S 人の世界にはいない生き物のように見える。

S.N 使われている色は、赤と緑と白。ダリの絵とは、色使いが全然違う。

鬼本 みんな、いいね。だいぶ見えるようになってきてる。この作品は、先にタイトルを教えましょう。《ゴシック聖堂でオルガン演奏を聞いている踊り子》です。どうでしょう？

S.S タイトルに「教会」とあるように、絵の中に十字架っぽいものが見えます。これはダリとの共通点かも。

K.M 月のようなものも見えます。夜なのかな？

鬼本 なぜそう考えたかの理由を言ってくれるのがいいですね。確かに画面全体が暗いから、夜かもしれないね。

R.S 何に注目していいのかが分かりません。

鬼本 このグレーの部分は何だと思う？

R.S 真ん中を目立たせたかった？

鬼本 なぜ目立たせたかったのかな？

R.S 重要なものだから？ あ、教会かもしれない。

鬼本 いいね。教会ではなにが起きていると思う？

S.N 人じゃないかもしれないけど、何かが集まって、踊っている。

鬼本 そうだね。この絵は、第二次世界大戦中に、ミロがスペインのマヨルカ島に疎開していた時に思いついたものだそうです。教会に行った時に聞こえてきたオルガン演奏にインスピレーションを得て描いたといわれています。この暗くうごめく感じは、その時の心情を表しているのかもしれない。



さて、今日はみなさん、話をしながら一作品を20分くらいかけてじっくり見ました。するとどんどんいろんなものが見えてきて、自分なりの考えが生まれたのではないかと思います。また美術館に行った時に、一緒に行った人と話をしながらじっくり作品を鑑賞してみてください。それまで見えなかったものが見えてくると思いますよ。

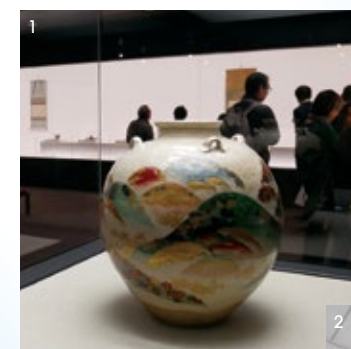


この機会に、これまでの歩みをふりかえりつつ、「わたしたちの強みって？」を考えてみます。

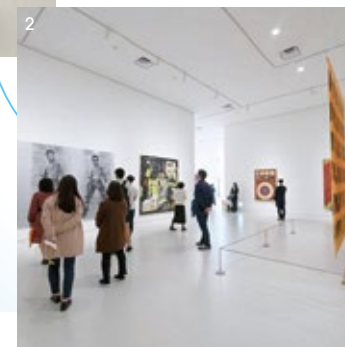
祝
40

Fukuoka Art Museum
40th Anniversary
福岡市美術館
開館40周年

福岡市美術館は開館40周年を迎えました。巨大な船にも例えられ、開館当時からどつしりと貫禄のあった美術館ではありましたが、いつも順風満帆であったかという、喜びも多々あったけれど試練もあった、というのが実感です。喜びであり、試練でもあったのが、1990年に福岡市博物館、1999年に福岡アジア美術館と、10年おきに新しいミュージアムの誕生に立ち会えたことであり、その度ごとに移管によって収蔵品が減少したことでしょうか。特に福岡アジア美術館ができた後は、「福岡市美術館からアジアをとったらなにが残るの？」と聞かれたものです。その時にわたしたちは新しい目玉を探すのではなく、いままでのフィールドを広げ、深める



ことを選びました。館員それぞれがユニークな展覧会を企画し、その展覧会の評価が作品寄贈を呼び、ここにしかない作品を生かした教育普及プログラムを編み出す。コソコソと続けてきたその歩みのなかに、新しい顔であるダリの作品を含む1万6000点を超えるコレクションができ、福岡市美術館の強みが少しずつ浮き上がってきたと思います。今は「福岡市美術館の強みはコレクション！」と強くアピールしたいと思っています。



福岡市美術館、40歳になりました。

市民の宝物であるダリやシャガールを見に来てくださった方に、これ以外にもいいものがありますよ、とお伝えしたいと思っています。美術館をとりまく環境は刻々と変化していますが、これからも福岡市美術館は人と美術を結び、新たな価値を創造する主体として活動していきます。
(学芸課長 岩永悦子)

当館コレクションの歩み

- 1974年 コレクション第1号
ラファエル・コラン《海辺にて》購入。
- 1978年 旧福岡藩主黒田家より寄贈（後に一部購入）を受ける。
- ★ 1979年 福岡市美術館開館。
《色絵吉野山図茶壺》など松永コレクションが寄贈される。
- 1980年 アンディ・ウォーホル《エルヴィス》購入。
- 1988年 福岡市博物館開館。
国宝《金印》など歴史的資料を同館へ移管。
- 1990年 サルバドル・ダリ《ポルト・リガトの聖母》購入。
- 1995年 福岡アジア美術館開館。アジア近現代美術作品を同館へ移管。
- 1999年 2年半にわたる大規模改修工事を経てリニューアルオープン。
- 2019年

1. リニューアル後のコレクション展示室 古美術
2. コレクション展示室 近現代美術

LECTURE

つきなみ講座

October-December 2019

毎月1回、当館学芸員が、自身の仕事、展示、研究、関心ごとについて語ります。聴講無料。直接会場にお入りください。

「富野由悠季の世界」展を ふりかえる

- ◆日時 11/16(土) 15:00~16:00
- ◆会場 レクチャールーム(定員 54名)
- ◆講師 学芸係長(近現代美術担当) 山口洋三

10月 小西コレクションと その魅力

- ◆日時 10/19(土) 15:00~16:30
- ◆会場 レクチャールーム(定員 54名)
※講座中、展示室に移動して
ギャラリートーク(要観覧券)も実施します。
- ◆講師 学芸員(古美術担当) 宮田太樹



12月 「使う器／見る器」展を しっかり楽しむために(仮)



- ◆日時 12/21(土) 15:00~16:00
- ◆会場 レクチャールーム(定員 54名)
- ◆講師 主任学芸主事(古美術担当) 後藤恒

〈柿右衛門様式 色絵花鳥文大蓋物〉

FEATURE

ファミリー DAY 2019

11月3日の開館記念日にあわせて毎年開催している「ファミリーDAY」を今年も開催します。期間中は、いつでもだれでも気軽に参加できるプログラムや1日限りのスペシャルプログラムがみなさんを待っています。作品をみたり、つくったり、わくわく・どきどきアート体験。美術館が初めての方も、お子さん連れのご家族も、ぜひ遊びに来てください！



- ◆日時 2019/11/2(土)・3(日)・4(月) 10:00~15:00
- ◆会場 福岡市美術館
- ◆対象 未就学児童から中学生、その保護者
詳細は当館HPやチラシにて随時お知らせいたします。

★ 開館40周年記念事業

40周年を記念して、11月30日にパブリックアートについてシンポジウムを行います。詳細は当館HPをご覧ください。

福岡市美術館ミュージアムイベント協賛企業・団体 /



CALENDAR



OCTOBER

NOVEMBER

DECEMBER

特別展示室	コレクション展示室 近現代美術			コレクション展示室 古美術			東光院仏教美術室
	近現代美術室 A	近現代美術室 B	近現代美術室 C	企画展示室	松永記念館室		
	開催中・11/17 近代美術と九州 第2期	開催中・2020/4/19 コレクションハイライト① 美術史を彩った巨匠たち	開催中・2020/4/19 コレクションハイライト② 1945年以降の現代美術	10/1・12/1 秋の名品展 10/1・12/1 仙厓―小西コレクション	10/1・12/1		通期 東光院のみほとけ
10/1・11/24 ギョスタヴ・モロー展 サロメと宿命の女たち		11/2・2020/1/13 梅田哲也 うたの起源					
11/19・2020/1/26 近代美術と九州 第3期				12/3・2020/2/2 線の子カラ	12/3・2020/2/2		
12/3・2020/1/19 不思議の国のアリス展				12/3・2020/2/2 青と白の華やき―染付・使う器/見る器			

本誌掲載の催しは当館主催のものです。他の催しやイベントの詳細は、当館ウェブサイトですら随時お知らせします。また、催しの名称、会期などは変更となる場合がございます。

ふくおか応援寄付

ふくおか応援寄付

福岡市美術館が魅力的であり続けるためには、今後とも機会あるごとに美術品を収集することが不可欠であり、そのための資金として皆さまから「ふくおか応援寄付」（ふるさと納税による寄付）を募集しています。

10万円以上ご寄付いただいた方には、特別企画展開会式の招待状（1年分）を、また、福岡市外にお住まいの方で一定額以上の寄付をされた方には福岡市の特産品をお送りします。

みなさまからの応援をお待ちしています！

利用案内

開館時間 9:30～17:30
(7月～10月の金・土曜日は9:30～20:00)
※入館は閉館の30分前まで。

休館日 月曜日/年末年始(12/28～1/4)
※月曜日が祝日・振替休日の場合は
その後の最初の平日

〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6

TEL 092-714-6051 (代表) FAX 092-714-6071

www.fukuoka-art-museum.jp

おまけ美術館

福岡市美術館をもっと楽しむための、
うれしい小さな情報を
取り上げます。



当館 2F「レストラン プルヌス」では、展覧会とあわせて楽しめるコラボメニューを展開中。この冬のイチ押しは、『不思議の国のアリス展』とのコラボメニュー「アリスの世界のアフタヌーンティーセット」。トランプ型のサブレーや、ハートイチゴのフルーツサンドが3段重ねのアフタヌーンティースタンドに並び、夢のようなセットです。優雅な時間を満喫してみてください。



- ◆1日5組(10名様) 限定
- ◆1名様2,000円(税抜) ※予定
※ご注文は2名様より承ります。

EXHIBITION

不思議の国のアリス展

150年以上前に出版された『不思議の国のアリス』は、発行部数1億部ともいわれる世界的ベストセラー。様々な分野に影響を与え続けるこの物語の魅力を、日本初公開を含む貴重な作品とともに紹介します。



- ◆会期 2019/12/3～2020/1/19
- ◆会場 福岡市美術館 2F 特別展示室

福岡市美術館
FUKUOKA ART MUSEUM